



日本積層造形株式会社様より

## 最新の金属3Dプリンティング技術でよみがえる 古代 陸奥国印 贈呈式

令和6年4月18日

多賀城創建1300年記念事業として、創建からの歴史文化への関心を高め、多くの方々とともに機運醸成を図るため、日本の行政文書に欠かせない印章であって、古代律令国の一つ、陸奥国の「陸奥国印」の復元を行い、創建1300年記念式典における活用や古代城柵をモチーフに作成を進める御城印のデザインに使用すること等を予定しています。

このたび、復元を進める古代の「陸奥国印」の篆刻印をもとに、日本積層造形株式会社様の最新の金属3Dプリンティング技術によりよみがえった現代の「陸奥国印」が、同社より贈呈されることとなりました。

同社は、令和6年1月20日に月面着陸に成功した国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）が開発した小型月着陸実証機「SLIM プロジェクト」において、金属積層技術を活かして造形した衝撃吸収材（着陸脚）が正式採用されるなど、注目を集めている企業です。今回活用された金属3Dプリンティング技術は、金属粉末を熱による溶融と凝固を繰り返しながら、一層一層造形していく新しい技術で、従来の金属加工技術では難しかった、複雑構造の造形が可能なことから、近年注目されています。

つきましては、贈呈式の告知、取材等について、特段のご配慮のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

記

日時 4月23日（火） 13時30分～14時00分  
場所 市役所2階 市長応接室  
内容 陸奥国印（日本積層造形(株)作製）の贈呈  
事業概要 別紙のとおり

《問い合わせ》

多賀城創建1300年記念事業実行委員会事務局  
企画経営部市民文化創造課文化創造係  
☎022-368-2084（直通電話）



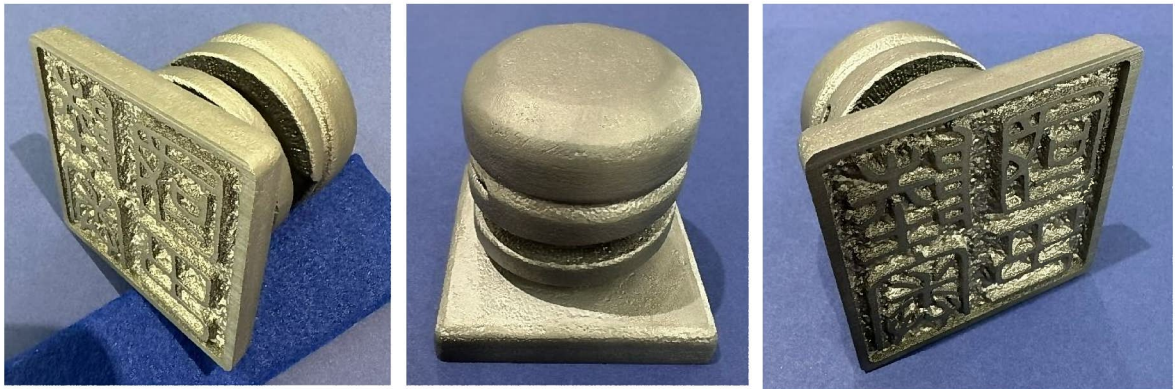
多賀城創建記念  
TAGAJO 1300th Anniversary  
724・2024

## 日本積層造形様作製陸奥国印について

仙台育英学園の生徒が印材に篆刻した「陸奥国印」の印影をもとに、多賀城市内に事業所を有し、最先端の金属積層装置（3Dプリンタ）を使って受託造形サービスを展開する日本積層造形株式会社様のご協力の下、陸奥国印が作製され、現代によみがえった。

本金属積層による陸奥国印の作製については、持ち手の部分に金属積層造形技術特有の金型のいない自由造形デザインを採用しており、今後、この陸奥国印の作製及び産官学間の連携について広く紹介していく。

### 【金属積層デザイン】



日本積層造形株式会社様（英文名：Japan Additive Manufacturing & Processing Technology）は通称 JAMPT（ジャンプ）とも呼ばれており、これになぞらえ、多賀城創建1300年を機に、多賀城も日本積層造形もジャンプ（飛躍、跳躍）という想いを込め、金属積層の技術が生かされる「バネ」を持ち手にした国印を製作することとした。

※印面は生徒の篆刻した印面を3Dスキャンしている。

同社は、市内八幡一本柳地区の津波復興拠点の工業団地「さんみらい多賀城・復興団地」に本社を置き、2017年の設立以来、東北大学の千葉晶彦名誉教授（金属材料研究所）を技術顧問として招聘し、日本では数少ないサービスビューロー（金属積層造形の受託造形サービス事業者）として、新たなものづくりに取り組んでいる。

### 【展示場所（予定）】

東北歴史博物館 1階 常設展入口右側あたり

### 【展示期間（予定）】

令和6年5月～7月